

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年12月19日 NO.71



オー君 「寒（さむ）くなったな。虫の集（あつ）まっている木って、もうないかな。」

モンタ博士「ほら、ここにあるよ。よく見てごらん。」

花ちゃん 「あっ！ヤツデの木ですね。」

オー君 「これがヤツデという木なのか。おいら見たことあるよ。高尾山（たかおざん）
でこの葉（は）っぱのウチワを買（か）ったことがあるよ。」

モンタ博士「そうだね。ヤツデはまたの名前を、テングノウチワともいうんだよ。」

花ちゃん 「ヤツデと言うのは、八つに葉っぱが分かれているから、八つ手でヤツデと
よばれるんだけど、葉の先が七つとか六つに分かれているのもあるのわね。」

オー君 「花は白でありきれいではないな・・・おっ！！！！虫がいたぞ。」

モンタ博士「さすがはオー君だね。すぐに見つけるね。どんな虫がいるのかな。」

オー君 「アブ、ハエ、それから、ハチもいるな。」

モンタ博士「そうだね。ハナアブ、オオクロバエ、クロスズメバチなどいろいろいるね。
ところで、これらはどんな虫かな、何か気がつくことはないかな。」

オー君 「あれ？どの虫たちも、色が黒（くろ）っぽい虫が多いね。ヤツデの花が白
からよけいにめだつ・・・だけかな。」

花ちゃん 「私、思（おも）い出したわ。理科でお勉強（べんきょう）したけど、黒（く
ろ）い紙と白い紙では、黒い紙の方が、すぐに熱（あつ）くなったわ。それ
と何（なに）か関係（かんけい）あるのかな。」

モンタ博士「その通りだよ。今ごろの気温（きおん）は10度くらいだろう。それじゃふ
つうは虫は動（うご）くことができないんだけど、黒っぽい虫は太陽（たい
よう）の光で体（からだ）が温（あたた）まって、体が16度くらいになる
んだ。それで動（うご）きだせるのさ。」

花ちゃん 「ふーん。ところで、何でアブたちは、ヤツデの花のところにきているの。」

オー君 「そんなの決まっているよ。みつや花粉（かふん）を食べに来ているのさ。」

花ちゃん 「どこにみつなんかあるの。」

モンタ博士「虫メガネで一つ一つの花を見てごらん。めしべのもとの丸い形をしいる花盤
（かばん）というものがあるけど、そこがみつのあるんだ。」

花ちゃん 「花の台（だい）みたいなものかしら。」

モンタ博士「そのとおり。花の台のところだ。」

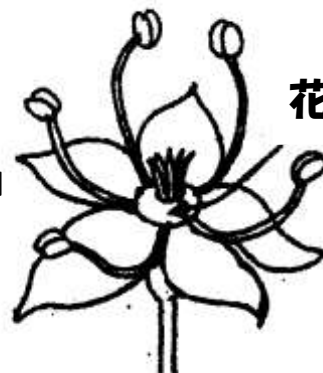
オー君 「何か光ってる！みつが集まってるんだ。」

モンタ博士「光っていることによって、虫たち
を集めているんだよ。ヤツデの花は、

きれいじゃない。でも、光ることで虫たちにサインをおくっているんだよ。」

オー君 「ヤツデもいろいろとくふうしてるんだ。おいら感心（かんしん）しちゃうな。」

モンタ博士「ヤツデのひみつはまだまだあるんだけど、この続（つづ）きは、また明日に
しようね。楽（たの）しみに、待（ま）っててね。」



花盤（かばん）